

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム潮風ひだか 【ユニット名:しらなみ】		
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	平成30年5月15日	評価結果 市町村受	平成30年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3092100043-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成30年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園地帯の中で四季折々の風景を味わえる環境に立地しております。入居者様が日々の生活の中で、役割や趣味の活動が多く取り入れられるよう心がけております。また看護職員を厚く配置し、介護職員との連携により異常の早期発見や、緊急時の早急な対応が出来る体制を築いております。介護、看護の連携により看取り介護への対応も行なっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療面の充実を図り、複数の看護師を配置して看とり介護、重度化への対応に備えている。定期的に訪れる理学療法士の指導で、日々の生活の中で体幹を鍛えるなどの生活リハビリを行い、利用者の重度化の予防にも取り組んでいる。重度化に伴い車椅子を使用する利用者が多くなってきているが、利用者一人ひとりが出来ることに目を向け、生け花が得意な利用者が花を生けるなど、利用者の生活活動を支える支援に努めている。職員は利用者の笑顔を引き出すことができるよう心がけ寄り添っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「いま、ここ、私、みんなの笑顔が咲いてます」というユニット理念を作り、職員が共通の姿勢でより良いケアに向けて取り組んでいます。	ユニットごとの理念に添って利用者の笑顔を引き出せる支援に努めている。理念を踏まえて、職員が出し合った案もとに、ユニット会議で目標を決めて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の行事に参加させて頂いたり、入居者様の住まれていた地域の方や友人等も訪問されています。	近隣の幼稚園との交流の中で、七夕会に招待されたり、敬老会に園児と触れ合う機会を設けたりしている。毎月、地域のボランティアの訪問で、大正琴を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員教育に力を入れ、各職員が地域の方の介護相談や認知症に関する相談、地域貢献ができるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様や近隣住民の方にサービス内容を知って頂き、意見や要望をサービスに反映できるよう努めています。	運営内容の報告等を行い話し合っている。話し合う中で意見が出されており、出席者の提案を取り入れて、利用者の外出先を決めるなど、運営に反映させている。	会議の内容を報告して利用者家族がより多く出席が得られ、また、地域の自治会や民生委員等にも働きかけ、より充実したものとなることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定を頂いている市町村の担当者に入居者様や事業所に関する相談をしています。また、定期的に訪問し関係性を築いています。	機会がある毎に何度も訪れて、担当者との協力関係が築かれており、相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画に組み込み、職員全体が理解できるよう取り組んでいます。行動を抑制するようなスピーチロックが出ている事があるため、その都度注意し合うよう努めています。	「ちょっと待って」等のグレーゾーンについて重点的に勉強し言葉による拘束が無いよう取り組んでいる。常時見守りが必要な利用者には離床センサーや布団に鈴をつけるなど、本人に負担をかけずに安全確保できるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても研修計画に組み込み、虐待の早期発見や見過ごすことがないように、日々のケアの中で状態観察をしています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか【ユニット名:しらなみ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内で研修を行い職員の理解が深まるよう努めています。現在、制度を利用されている方はおられませんが、必要に応じて対応できるよう体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の説明をする際に、本人様や家族様が納得いくまで話し合い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、来所時や電話連絡以外でもEメールやファックスで連絡を取り家族様の意見が聞けるよう努めています。得た意見を共有できる様、申し送りを徹底しています。	誕生会、敬老会には家族が訪れている。来所時や電話、Eメールで日頃からやりとりを密に取り、話しやすい関係を作っている。利用者や家族にも分かるよう廊下のシフト表に職員の名前と写真を貼っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議や日々の業務の中で意見や要望を聞き反映できるよう努めています。	職員には日常的に意見を聞き、またユニット会議の前に用紙を配り各職員が要望を記入して会議で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力に応じ役割分担を行い、報告や相談を密にとり進捗状況や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修受講に際して勤務調整を行ったり、実践者研修やリーダー研修に際しては金銭援助を行い、知識、技術の向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の方に現状の課題点等について意見交換をさせていただいています。本社の理学療法士にユニット内で出来るリハビリ等の助言を得て取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後に面談を行い、本人様の現状を把握し困っていることや求めていることを見出し、サービスに組み込んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまでに不安なことや不明な点、希望を聞き出せるようコミュニケーションを図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際して本人様及び家族様のニーズを見極めるようアセスメントを行い、適切なサービスを実施できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を尊敬、尊重し、日々のケアを通じて多くのことを学ばせて頂き、互いに支え合う気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や敬老会に家族様を招待し一緒に祝ったり、普段の生活の中で協力を得ながら本人様を支えて行けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の近隣の方や友人等が面会に来られた際に、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。また入居前に馴染みの深かった場所や思い入れのある場所に出かけたりもします。	馴染みの人と手紙でのやりとりができるよう支援し、遠方から友人が会いに来る人もいる。利用者が退去した後もその家族が収穫した野菜を持って遊びに来るなど、ホームで築いた関係も継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話や関わりを持ちやすいよう、必要に応じて職員が仲介し同じ空間、時間を共有できるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族様の相談を受けたり、本人様にも会いに行かせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で入居者様の希望や要望を汲み取れるよう、入居者様の言葉を記録し職員間で共有しています。	職員間で本人の思いを共有できるよう24時間シートや申し送りノートに本人の言葉を記録している。ことばで表せない利用者には表情で思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を本人様や家族様、関係のあった方々に聞き、今の生活に反映できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの趣味や嗜好を取り入れ、有する能力を継続できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や家族様の意向や意見を聞き計画書へ反映し、状態の変化に柔軟に対応できる様ケアカンファレンスを行っています。	半年ごとに計画を立て、3カ月ごとに検討会議を開いて話し合い、評価、見直しをしているが、検討内容が新しい計画にあまり反映できていない。	期間ごとにその人を支える工夫に焦点をあてた目標を設定するなどして、見直した内容を次の計画に反映できることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基に申し送り時に職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や行きたい場所へ職員や家族様と出かけられたり、病院受診の援助を行っています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか【ユニット名:しらなみ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方にお越しいただき、残存機能の活用及び楽しみが持てるよう協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様が希望される医師に依頼し、定期的な訪問診療や受診を実施しています。	入居前からのそれぞれのかかりつけ医と連携している。看護師が利用者の健康管理、医療機関との連携を担当し、介護スタッフの相談にも応じ、協力して取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報交換を密に行い、主治医や医療関係機関と連携し健康管理、緊急時の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に定期的に面会し、医療スタッフや相談員と情報交換を行い連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の指針や事業所での対応方法を説明し同意を得ています。また、終末期の対応は主治医や看護師、家族様と密に連絡を取り、必要に応じて家族様が泊まれるよう努めています。	重度化に伴い、その都度家族に意思を確認している。ホームでの看取りができる体制を作り、看護師、主治医と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日高広域消防本部の協力を得て、AED、心肺蘇生法等の応急手当を学ぶ機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の方に火災や水害等の災害時における協力体制を築いているが、想定した訓練は未だ実施出来ていない。	近隣に民家がありませんが、近くのアパートと災害時の協力関係が持たれている。備蓄は3日分の食料などがある。いざと言う時の為にライフジャケットを装備し、火災の避難訓練では利用者も玄関まで避難している。	夜間想定や想定外の訓練も実施できるよう、今後期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声かけや対応を行い、不適切な対応等があればその都度注意し合うよう努めています。また、家族様の了解の基、親しみを込めて呼びなれた名前でも呼ばせていただく事もあります。	一人ひとりを尊重した声かけに配慮し、本人の反応を見ながら本人が望む呼び方で声掛けしている。訪問販売でのパンの購入など、利用者が自分の意思で決める機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で洗濯や調理など入居者様のしたいことができる時間を多く取り入れています。入浴や食事も本人様の希望に沿えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを心がけ、本人様の趣味や嗜好をサービスに組み込めるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方にはお化粧をしたり、男性の方には髭の手入れをしたりなど、本人様の望む身だしなみができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を献立に取り入れています。盛り付けや片付け等、入居者様が出来る事が役割りのひとつとなるよう努めています。	嚥下予防に食事前に歌を歌っている。職員と利用者が和やかに話しながら食事している。月2回利用者も一緒におやつを作り、また年2回程度喫茶店におやつを食べに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材や旬な食材を使用した献立を作成し、栄養バランスが偏らないよう努めています。水分や食事を把握できるよう毎回チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しております。また、外出後には手洗い、うがいを促しています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか【ユニット名:しらなみ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄能力をアセスメントし、排泄パターンを把握し個々に応じて誘導を行い、自立した排泄支援を行えるよう努めています。	排泄パターンを把握して利用者が自立で排泄出来るように支援している。リハビリパンツの利用者が多く、夜間排泄量の多い人にはそれぞれに合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を取り入れ、なるべく自立した排便ができるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を定める事なく入浴支援を実施し、希望される時間帯に合わせて実施しています。	午後の時間帯に隔日の入浴を支援している。拒否傾向の利用者も、タイミングをみて入浴できるよう工夫され、脱衣場の棚に入浴後に使用する個人専用の保湿クリームが並んでいる。1階にはリフト浴の設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠られない方にはゆっくり会話をしたりお茶を勧める等し落ち着いて過ごして頂けるよう支援しています。入居者様の意思や状態に応じて日中の休息もしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが理解し管理に努めています。また、薬に関して異常があれば薬剤師や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や調理、生け花等、思い思いの時間を過ごされています。主治医や家族様の了解の基、お酒やおやつ等も楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり定期的にドライブや喫茶店へ行くなど、外出支援に努めています。また、季節ごとに花見や紅葉等で季節感を感じて頂けるよう支援しています。	月に2回程度ユニットごとに全員でドライブに出かけている。予備日を作り、行けなかった人も行ける様に工夫している。利用者が花壇の手入れや、洗濯もの干しもできるように見守っている。	外出の機会を増やし、サプライズの演出等、日頃の生活の中で、楽しみながら、体を動かす工夫ができることを期待する。

【事業所名】グループホーム潮風ひだか【ユニット名:しらなみ】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解の基、少額のお小遣いを本人様が所持管理し、困難な方は金庫にて預かっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族様や知人の方と電話でお話したり、手紙のやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室の温度、湿度を快適に過ごしやすい環境になるよう注意しています。また季節に合わせて飾りや写真を変える等しています。その都度入居者様の状況に合わせてテーブル等の配置を変更しています。	横になれる畳のスペースが有り、寛げる場所になっている。利用者の楽しみごとにも共用スペースを工夫して活用しており、手作りのボーリング大会などで楽しむ事もできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳で横にならされていたり一人で寛げるよう数か所に椅子を配置しています。また、入居者様同士の関係性を把握し、席の配置にも考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で落ち着いて過ごせるよう使い慣れた家具や愛着のある物を持参して頂いています。	ベッドや椅子を手すり変わりにしたり、写真や、テレビや、使いなれたダンス等が置いてあり利用者それぞれの居心地の良い空間になるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で移動や入浴、排泄等を入居者様の残存機能が十分発揮できるよう配慮し介助しています。		